シラバス（授業計画）

学科名	動物看護科					コース名	動物看護コース	
科目名	動物臨床看護実習Ⅰ					必修・選択必修の別	必修	
実施期	1年	前期	78 時間	後期	96 時間	授業時間数合計 ※授業50分を1時間とする。	174 時間	
	2年	前期	- 時間	後期	- 時間			
	3年	前期	- 時間	後期	- 時間			
担当講師	周藤 行則　遠藤 征明　小山 佳容子							
	実務経験	有	現場の経験を活かしたリアルな実習授業を行っている。					
授業概要	講義で習得した知識の実践とし、診療現場で必要な観察力及び看護法に関する基本技術を身につける。それぞれの動物種や状態や処置内容に応じた保定技術、感染予防のための消毒への理解、投薬や各種処置・検査時の備品の準備や正確な手技の習得、バイタルサインの評価・記録・報告などを習得し、手順や要領を考慮した行動から、問題解決能力や看護実践能力を身につける。					授業形式	実習	
到達目標	基礎的な動物看護における問題解決や看護実践ができるようになる ・外観から異常に気付ける観察力が持てる ・基本的な保定が出来るようになる ・処置や検査の準備、記録、報告が出来るようになる ・バイタルサインの確認や簡単な身体検査を行えるようになる ・基本的な便検査、尿検査、耳垢検査、眼科検査ができるようになる							
教科書・教材・服装等	インターズー　動物看護師実習テキスト、　配布プリント							

授業計画時間数	授業内容
1～3	各種注意事項説明、安全な犬の扱い方やサークル・ハウス掃除ができるようになる
4～6	犬の抱き方、各種の保定法、体重測定、
7～9	T・P・R・股動脈の測定、犬の年齢について
10～12	ＢＣＳ、一般状態、保定復習
13～15	循環器系（可視粘膜、CRT、脱水評価）を学び検査の実践ができるようになる
16～18	心臓の解剖生理、ＭＲの心音聴取、心臓病ﾘｰﾌﾚｯﾄ解説
19～21	体表系(皮膚病変の発見法と報告法)を学び検査の実践ができる、消毒の重要性を理解する
22～24	感覚器（目、鼻、口腔内）
25～27	点眼・投薬練習、歯磨き
28～30	電子顕微鏡操作が操作できるようになる、各種標本の作り方を学ぶ
31～33	薬袋の書き方、読み方、専門用語について
34～36	ディフクイック染色について学び、染色液を使った耳垢検査ができるようになる
37～39	検耳鏡説明と耳の処置法説明
40～42	生殖器系（♂♀外陰部、乳腺チェック）を学び検査の実践ができるようになる
43～45	呼吸器系を学び検査の実践ができるようになる
46～48	神経系を学び検査の実践ができるようになる
49～51	腹部の触診・聴診／各種検査時の保定復習
52～54	シリンジ操作とバイアル・アンプルの扱い練習
55～57	尿検査①尿採取法を学ぶ、屈折計を使い尿比重が測定できるようになる
58～60	尿検査②尿沈渣で見ることができる細胞成分を学ぶ
61～63	尿検査③沈渣-1（細胞成分）と遠心機の使い方
64～66	尿検査④沈渣-２（円柱、結晶成分）　/ 保定チェック
67～69	扱い注意の犬の対応を学ぶ（口輪、エリザベスカラーが装着できるようになる）

70～72	薬袋の書き方、読み方、専門用語について / 保定チェック（試験）
73～75	前期で学んだ内容の確認を行う
76～78	シリンジ、針、バイアルの復習とアンプルの扱い方
79～81	【猫実習】猫の各種保定法を習得する
82～84	便検査①直接法の標本を作れるようになる
85～87	便検査②直接法作成のチェック、スケッチ
88～93	便検査③浮遊法の検査意義や手技を学び検査の実践ができるようになる
93～96	便検査④便検査浮遊法スケッチ
97～100	横臥位の保定法、♂尿カテ採尿デモ
101～103	皮膚検査①テープ法、皮膚掻把検査の検査意義や手技を学び検査の実践ができるようになる
104～106	皮膚検査②（ダーマキット）
107～109	【猫実習】猫の扱い方、ケージキャリーからの出し入れの方法を実践できるようになる
110～112	眼科検査①眼科検査保定、STT、触診による眼圧簡易チェックの検査意義や手技を学ぶ
113～115	眼科検査②検眼鏡、フルオレセイン染色の検査意義や手技を学び検査の実践ができるようになる
116～118	扱い注意の犬の対応（口輪、エリザベスカラー）
119～121	撓側皮静脈からの採血時の保定法を習得する
122～124	採血各種保定法（サフェナ・頚静脈）を習得する
125~127	横臥位の保定法の復習を行う
128～130	猫にやさしい診療について考える
131～133	【猫実習】各種保定法
134~136	横臥位の保定法の復習、仰臥位、腹臥位保定法
137~139	一般家庭犬を通して様々な犬の扱いに慣れる
140～142	シリンジバイアル練習
143～145	実習でよく使う薬剤について
146～148	採血保定の確認を行う（実技テスト）
149～151	【猫実習】各種保定法
152～154	1年間で学んだ検査の手技の確認を行う（実技テスト）
155～157	1年間で学んだ検査の手技の確認を行う（実技テスト）
158～160	後期で学んだ内容の確認を行う（試験）
161～163	ワクチン実習に向けた事前講習を行う
164～166	ワクチン実習を通して保定の重要性・予防の重要性を学ぶ
167～169	ワクチン実習を通して保定の重要性・予防の重要性を学ぶ
170～172	ワクチン実習を通して保定の重要性・予防の重要性を学ぶ
173～174	前期に学んだ検査の復習を行う（耳垢検査・尿検査）

成績評価方法	・出席率	定期試験	○	筆記試験
	・定期試験や小テスト		○	実技試験
	・平常点（提出物・授業参加意欲など）			実施しない

成績評価基準	A評価	出席率90％以上・定期試験80点以上・平常点 優れている
	B評価	出席率80％以上・定期試験70点以上・平常点 普通
	C評価	出席率70％以上・定期試験60点以上・平常点 やや劣る
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合